

2024年2月27日

カニクイザルの結核症例について(続報)

国立大学法人滋賀医科大学長 上本 伸二
動物生命科学研究センター長 遠山 育夫

2023年9月25日にホームページ上にて、本学動物生命科学研究センターで飼育していたカニクイザルが結核菌に感染していたこと、及び結核確定診断までの経緯並びに本学における対応状況についてお知らせいたしましたが、その後の経過について、改めてご報告いたします。

【接触者への拡大調査】

当センターでサルを取り扱う教職員から調査対象者の範囲を拡大し、外部から受入れた研修生、退職した教職員、及び派遣スタッフにもTスポット検査またはクオンティフェロン検査を実施した結果、関係者全てに異常所見は認められませんでした。

【飼育サルの感染検査】

感染したサルと同室の403号室にて飼育中のカニクイザル36頭に、5回のツベルクリン試験(Tuberculin Skin Testing)及びインターフェロン- γ 遊離試験(Interferon-Gamma Release Assay)を実施し、いずれも結核陰性と判定しました。また、当センターの他の部屋で飼育しているサルについても、全てツベルクリン試験を完了しました結果、全頭陰性でした。

【保健所の見解】

令和5年9月22日に大津市保健所に感染症発生届を届け出ました。大津市保健所より、調査の結果、本学の対応に問題はないと判断したので、指示事項は特になく、さらに、この件については終息したと考えてくれて良いとの見解を示されました。

【霊長類研究に関するバイオセーフティ委員会】

学外の有識者を委員に含めた本学霊長類研究に関するバイオセーフティ委員会を開催し、死亡から結核感染が確定し、保健所へ届け出るまでの経緯に問題がなかったか調査を行いました。調査の結果、当センターにおいて、明快な指揮命令系統の構築を行う等組織体制を見直すよう提言がありました。

また、当センターで飼育するサルについては、これ以上の結核感染の恐れはなく、通常の実験に供されることに問題はないと承認されました。

今後は、霊長類バイオセーフティ委員会の提言を真摯に受け止め、当センターの組織構成

の再構築をはかりながら、一層厳正な管理・運営に努めてまいります。
共同研究機関を含め関係者の皆様にはご心配をおかけし心からお詫び申し上げます。
今後ともご厚誼を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

本件に関する連絡先

滋賀医科大学研究推進課

e-mail: hqshien@belle.shiga-med.ac.jp

TEL: 077-548-2020